

# カラリストと一般の方のドレーピングによる印象評価の差異

## Defference of evaluation on draping between colorist and general public

疋田千枝 Chie HIKITA 市場丈規 Takenori ICHIBA 近藤恵未 Emi KONDO 近藤ひろみ Hiromi KONDO  
菅育子 Ikuko SUGA 多田真奈美 Manami TADA 富本いちこ Ichiko TOMIMOTO ながなわ久子 Hisako NAGANAWA  
吉田名保美 Naomi YOSHIDA 足達朝子 Asako ADACHI 竹川一良 Kazuyoshi TAKEKAWA (くらしの色彩研究会)

Keywords : パーソナルカラー診断,ドレーピング,一対比較法

### 1. はじめに

パーソナルカラー診断時にドレープが顔色に及ぼす影響(1)、(2)を第42回色彩学会全国大会で発表した。この発表に対し、診断評価したのがカラリストのため、ドレーピング前にモデルのシーズン判断をしてしまい、それがドレープを見ての評価に影響したためではないかという疑問・意見が寄せられた。そのため、カラリストと一般の方でドレーピングによる印象評価にどの程度差があるのかを調査した。

19歳の女子学生をモデルに、日頃からパーソナルカラー診断を行っているカラリスト10名と一般の方40名に協力いただき、ピンク、グリーン、ブルー、レッドの4シーズンドレープを通常のパーソナルカラー診断のようにカラーカテゴリーごとに一対比較法で印象評価を行った。

結果は、カラリストも含め、個々人のバラつきはあるが、平均すると最も好印象のシーズンはカラリスト、一般の方のどの年代でも一致し、他シーズンとの差異も明瞭であった。

### 2. 試験条件と評価方法

1). 照明条件は高演色性LEDライト(東芝ライテックLEDミニライト600クラス:5000K、Ra=92以上)13.3W2灯を顔に対し仰角45°水平方向左右に各45°距離2mに設置し、3波長型蛍光灯昼白色(天井部)を補助光源として用いた。診断時の照度は顔中央部で約800~1000lxとした。尚、照度計にはトプコンIM-2D(JIS A級準拠)を使用した。

2). 被験者は、19歳の女性で、普段通りの化粧をした状態で行った。

3). 診断者は日頃からパーソナルカラー診断を行っているカラリスト10名(20歳代~60歳代・男性1名)とシニア(60歳以上)24名、ミドル(30~45歳)13名、ヤング(18,19歳)13名の女性に協力いただき、年代ごとに別の日に異なる場所で行った。

4). ドレープはピンク、レッド、ブルー、グリーンの4シーズン診断用テストドレープを用いた。ドレープのNCS値を(図1)(表1)に示す。NCS値は視感測色によってNCS INDEX1950から近似色を求めた。

5) 評価方法はドレープによる被験者の印象の良し悪しをカラーカテゴリーごとに一対比較法で評価した。

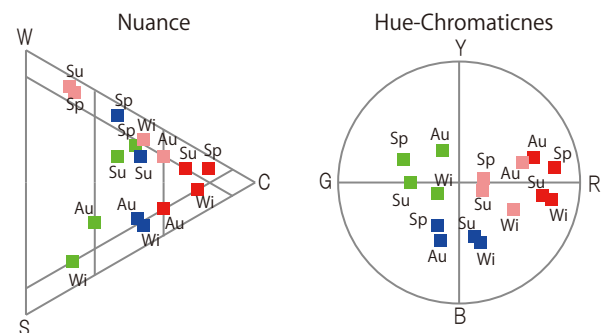


図1. ドレープの色分布

表1. ドレープの色分布(NCS表示)

	Spring	Summer	Autumn	Winter
Pink	S0520-Y90R	S0520-R20B	S1060-Y80R	S1050-R30B
Blue	S0540-B30G	S1550-R80B	S4050-B20G	S4050-R80B
Green	S1050-G25Y	S2040-G	S5030-G70Y	S7020-B70G
Red	S0580-Y90R	S1070-R10B	S3060-Y80R	S1575-R10B



### 3. 一対比較法による評価結果

評価結果を表2に、サーストン(ケースV)による距離尺度表示を表3及び図2に示す。

表2-1. 一対比較法による集計結果(率)-Colorist

	Spring	Summer	Autumn	Winter	比率(%)
Spring	—	0.39	0.83	0.50	28
Summer	0.61	—	0.84	0.85	39
Autumn	0.18	0.16	—	0.45	13
Winter	0.50	0.15	0.55	—	20

表2-2. 一対比較法による集計結果(率)-General

	Spring	Summer	Autumn	Winter	比率(%)
Spring	—	0.45	0.70	0.48	27
Summer	0.55	—	0.73	0.77	34
Autumn	0.30	0.27	—	0.41	17
Winter	0.52	0.23	0.59	—	22

表3-1. サーストンケースVによる距離尺度-Colorist

	Spring	Summer	Autumn	Winter	Average
Spring	—	-0.29	0.93	0.00	0.22
Summer	0.29	—	0.98	1.04	0.77
Autumn	-0.93	-0.98	—	-0.13	-0.68
Winter	0.00	-1.04	0.13	—	-0.30

表3-2. サーストンケースVによる距離尺度-General

	Spring	Summer	Autumn	Winter	Average
Spring	—	-0.13	0.52	-0.04	0.12
Summer	0.13	—	0.62	0.73	0.49
Autumn	-0.52	-0.62	—	-0.21	-0.45
Winter	0.04	-0.73	0.21	—	-0.16

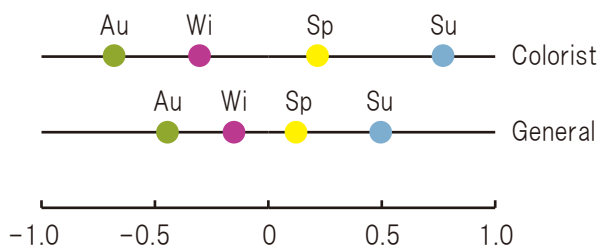


図2. カラリストと一般(合計)との印象評価



### 4. 結論・考察

1) シーズン評価は、カラリストと一般の方で距離差(評価のばらつき差)はあるが、傾向は一致した。

2) 表2-1 から判るようにカラリスト間でも評価にばらつきのあることが明瞭になった。

3) 一般の方の年代による評価差も見られるが、最も高評価のシーズンには差がなく(表4)(図3)、低評価同士との比較は難しいことを示していると考えられる。

### 5. おわりに

1) 検体数からしてこれだけでカラリストと一般の方では評価に大きな差がないと断定するのは早計であり、今後追試による検証を行っていききたい。

2) カラーカテゴリーごとのシーズン間の距離尺度の違いや年代間差、カラリスト間の評価差など、この評価実験からいくつかの興味深い傾向も見られた。今後の研究課題としたい。

表4-1. 一対比較法による集計結果(率)-Senior

	Spring	Summer	Autumn	Winter	比率(%)
Spring	—	0.47	0.71	0.52	29
Summer	0.53	—	0.77	0.73	34
Autumn	0.29	0.23	—	0.33	14
Winter	0.48	0.27	0.67	—	23

表4-2. 一対比較法による集計結果(率)-Middle

	Spring	Summer	Autumn	Winter	比率(%)
Spring	—	0.52	0.54	0.48	26
Summer	0.48	—	0.69	0.69	31
Autumn	0.46	0.31	—	0.62	23
Winter	0.52	0.31	0.38	—	20

表4-3. 一対比較法による集計結果(率)-Young

	Spring	Summer	Autumn	Winter	比率(%)
Spring	—	0.46	0.58	0.40	24
Summer	0.54	—	0.58	0.77	31
Autumn	0.42	0.42	—	0.54	23
Winter	0.60	0.23	0.46	—	21

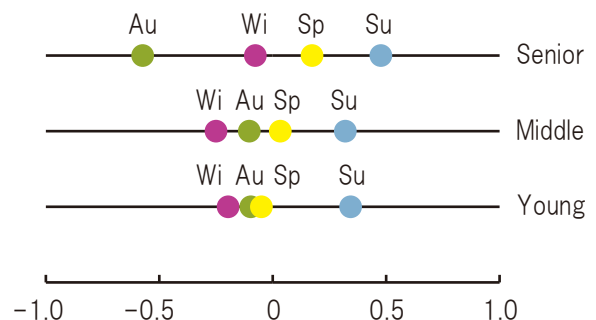


図3. 一般の年代別印象評価